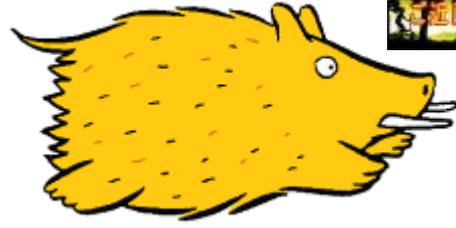




トマソン隊だよね？



品川宿2編

by うさお



前は海徳寺の色々なものを見てまいりました。今回はそこから目黒川に出て、荏原神社に向かいました。この地図の左上のほうに、品川神社があるのをお気づきでしょうか。この品川神社と荏原神社は縁続きの神社さんなのだ。

縁起に言います。和銅2年(709年)9月9日、大和国丹生川上神社より高麗神(水神)の勧請を受けて南品川に創建し、後に遷座しました。

旧鎮座地には今も水神の貴布彌



鎮守橋

神社があります。長元2年(1029年)に伊勢神宮より豊受大神・天照大神、宝治元年(1274年)に京都祇園社(八坂神社)より牛頭天王を勧請したとのこと。牛頭天王ってのは須佐男之尊のことだよ。だから元々は水神さんなのだ。漁師町だからね。

この水神を祭って海の中に入り祈願した浅瀬のところが天王州だ。

現代にも天王州アイルとして地名が残っています。

さて、池尻大橋から端を発する目黒川を渡ってみましょう。この橋は鎮守橋といいます。流石、荏原神社の前にある橋です。鎮守？…

元々この地には地主神(出雲神？または蝦夷神？)がいたはず。それを伊勢大社系(大和朝廷)の神々が取って代わった為に、崇られないように鎮守したってことかなあ。

二期に亘って鎮守したことは長い間崇りがあたって証拠、まさに神々の流竄だね。





品川橋



北品川方面

が見えたのか？

目を転じて北品川を見てみましょう。旧街道は意外に道幅が狭かったようです。



南品川方面

この橋の掲示板に曰く。

品川橋の今昔

この辺りは江戸の昔、「東海道五十三次 一の宿」として、上り下りの旅人で大変にぎわいました。また、海が近く漁業もさかんなところでした。今でも神社仏閣が多く、当時の面影がしのべれます。

〔品川橋〕は、旧東海道北品川宿と南品川宿の境を流れる目黒川に架けられ江戸時代には〔境橋〕と呼ばれていました。また別に〔行合橋〕・〔中の橋〕とも呼ばれていたようです。最初は木の橋でしたが、その後石橋になり、そしてコンクリート橋から現在の鋼橋へと、時代の移り変わりとともに、その姿を川面に映してきました。

〔品川橋〕がこれからも、品川神社や荏原神社のお祭りである、「天王祭」のにぎわいととも、北品川・南品川の交流と発展を深める「かけ橋」として、皆様に親しまれることを願っています。

平成三年四月一日 品川区

品川橋の袂には常夜灯を形取ったものや阿妻屋と掲示板がありました。橋の上に樹木が生い茂った分離帯があります。歩く人にはとても居心地の良い緑のゾーンです。橋の横幅がとてもある橋に感じます。周りの橋も赤い欄干がデザインが冴えておりました。

左の写真は品川橋から南品川を望んでいます。昔の橋はどんな橋だったのか？この方向に何



品川橋から日本橋のほうに歩いていきましょう。商店街入口にあるアルミ製のモニュメント？って言うか、ちょっとチープな大門もどきを潜り抜けて、暫く歩いていくと聖蹟公園の入口に辿り着きます。

ここにどうやら本陣が在ったらしい。時はまさに祭礼の準備に忙しい夏の真っ盛り。暑くて歩くのも嫌でした。名物の松の木が一本植っており甲賀の宿より貰ったものらしい。





江戸時代の地図を見ると、海徳寺を見ることが出来、品川神社と思しきところに「天王様」とあるのでさほど地形は変わっていないようだ。兎にも角にもお寺さんと神社の多い処だ。海難事故が多かったのかな？

大通りに面した所に品川宿が並んでいたのだろう。御殿山の裏手はほとんど畑であったようだ。



品川と言えば品川遊郭が有名ですが、正式には品川に遊郭はありません。江戸時代は遊郭は吉原以外は認められていません。幕府は娼婦を認めていませんでした。だから宿場に置かれたのは飯盛女と言う娼婦でした。時代が下ると、東海道の品川、甲州街道の内藤新宿、奥州街道の千住、中山道の板橋の四宿には、例外的に女郎を置くことが認められました。江戸の地は慢性的な女性不足で結婚できない若い衆が結構いたそうで、落語なんぞによりますってえと、若い衆が四宿に遊びに行く話が多いって寸法だあ。



「品川の 客、人へんの あるとなし」の句は言えて妙ですね。人偏が付いているのが「侍」で、付いていないのが「寺」。大名行列と多くのお寺さんで賑わう品川らしい。侍とお坊さんが人目を忍んで宿場に遊びに行ったのだろう。こういう句はうさおは好きです。さて、このお寺さんは豊盛山延命院一心寺です。宿場町の真ん中にいきなり現れますので、ええって感じです。真言宗智山派のお寺さんらしいです。うさおの家も真言宗です。（だから何だと言われると・・・）寺の歴史は意外に浅く、井伊直弼の一言で町が建立したらしい。中を覗くと成田山新勝寺の不動明王を分身してご本尊としていることが書かれています。紅殻の提灯建てが如何にも品川っぽく感じるのは、うさおだけか。



ここは品川宿品海公園。ここも宿場の跡です。御殿山が左手の方に見えています。立看板には当時と道幅はほとんど変わらないと書いてあります。品川は江戸への入口、大名行列も品川には必ず逗留した筈。この狭い道で行列がすれ違うことは出来まい。とすれば江戸詰めめの気の利いた用人が事前に各大名家と調整をして、行列がぶつかからない様にしたのである。格式も気にしながらだ。何時の時代もサラリーマンは辛いなあ。ここで変なことに気が付いた。ここにも品川の松が存在するのだ。



際に品川宿から5本目の松として寄贈されたのだとか、5本目？何か由緒が無いなあ。



しばらく北品川方向に歩くと金物屋に行き着いた。見事に緑青を吹いた銅版細工がノスタルジックなものを感じさせる。

うさおは暑くて目も開けられない。汗が滴り落ちるのだ。メタボ症候群の典型だ。

品川宿はこのまま町を維持していけるのだろうか？天王州、品川駅周辺の開発は年々顕著になってきている。これだけの数のお寺さんは今後も維持していけるのか？何となく「消え行く町並み」のような気がして、「棄景」と言う言葉が頭をよぎります。

地図で台場小学校を見ると、昔の台場の敷地の形が見えてきます。小学校の敷地が台場そのままなのだ。



どうせなので小学校の周りを巡ってみることにした。



この細い路地を辿って行くことにしよう。人一人がやっとの狭さだ。



思わぬところにお稲荷さんがあった。狭い住宅の合間にぬっと出てくる。どうも品川は驚かすことが好きらしい。ええっ、驚いちゃいましたよ。夜だったら叫んでいるところです。怖くて。しかもこの狭い通路しか出入り口が無いんですよ。





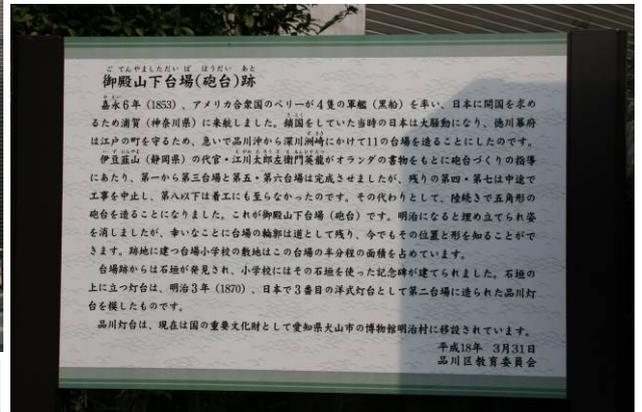
ようやく路地を抜けると、小学校の正門に行き着きました。



変なところに「文部省」の石が路面に刺さっていました。



そこにはミニチュアの品川灯台と台場に使われていた石が積まれていました。



うさおはだらしなな格好に見えますがね、本人はこれこれと楽な取材体制なのです。足は昔の人と同様に草鞋履きですし、背に振り分け荷物（リュックサック）ですっかり旅人気分を味わってました。（ちよいと無理がありましたか？）

最後はとても疲れちゃったから、京浜急行の北品川駅から乗り込みました。平日でしたので高校生が多く乗っていました。





鶴見には鶴見線と言う鉄道愛好家には堪らない鉄道があります。今はJR東日本の持ち物となっていますが、戦前は鶴見臨港鉄道の持ち物でした。

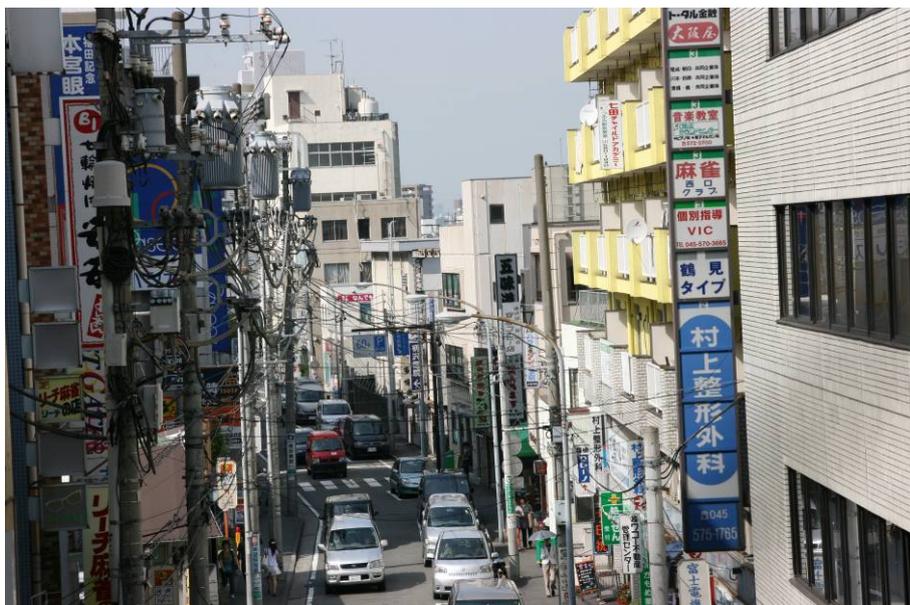
戦時には軍需物質の搬送のために接収されたと聞きます。戦後になっても鶴見線は臨海の工業にとっても、米軍にとっても用途のある鉄道であったため、民間に移管するのは、いささかの障害が在って、そのままになったのでしょう。



ただ、鶴見臨港鉄道の会社はそのまま存続して、鶴見西口のミナールと言う駅ビルとして残っています。

鶴見線は更に延伸する予定だったようで、当時の森永製菓の工場に直結するはずでした。今でも地図の上で見るとそれが明らかで、ミナールから始まって、JR線に沿って東京方面に向かうと道路との境に赤破線で示した、丁度鉄道の軌道が収まる程度の敷地があります。





うさおの高校の同級生がこの軌道敷内で焼き鳥屋をやっています。昨年はそこで同期会をしました。仕事をしている彼は少し面映そうでした。

店は古く、おふくろさんの時代から焼き鳥屋さんで、彼はそれを継いだとのこと。この辺りでは上手いので評判の店なのとか。

「三角」近くの三叉路に当たるとそこには、東亜建設工業のビルが建っており、この土地が浅野総一郎の所縁のものと判ります。

ここまではほぼ直線で、ここから約60度ほど北に曲がっていくこととなります。

このJR線のアンダーパスの道路を越えると鶴見川の川岸に沿う様な形で進んでいきます。

うさおの指し示すビルの外形が極端に変形していることが判りますよね。

多分敷地一杯に立てたのでしょう。敷地の形がそっくり現れています。



どうやら隣の土地は空き地で、まだ売られていないようです。



ガンダムぽいよね～え



ここは既に人手に売られてしまったのでしょうか。

ほとんどが住宅になっていますが、同様に敷地の形に合わせて建てたのでしょうかね。

周囲の家の角度が道路に対して、平行ないしは直角になっているのと較べて、丁度60度くらい微妙に家の振り角が異なります。ねっ微妙ですよ。



この辺りは今は「読んどく会員」のガミちゃんの家の近く。Caccoは遭うんじゃないかときよろきよろしてました。遭ったらお家にご招待されて、冷たいものでも振舞われちゃったかなあ。うさおは西瓜も大好きだよ。てな事を言いながら闊歩していたら、何やらいわくのありそうな祠が。前に廻って見ると、延命地藏尊でした。



この地藏尊には碑文があるのだが、あまり意味が判らない。同一の内容を三回説明しており、『地藏菩薩に延命の徳あれば名付け参らせし御仏にして延命菩薩法の本尊として金剛薩埵なり 経に曰く「毎日晨朝入諸定遊化六道衆生抜於苦与於楽」・・・』要は河村禅玲なる人が鉄道工事に際し建立したものを、戦火を浴びた後、上矢久氏が建て直したものだ。

唐突と思いながら次号へ続く。